



やない かずひこ
谷内 一彦 教授

～ 機能薬理学分野 ～

講義題目

私の”拡散系“薬理学研究：

分子イメージングとヒスタミン研究

略 歴

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1981年3月 東北大学医学部医学科卒業 | 2012年4月 東北大学大学院医学系研究科副研究科長
(併任～2015年3月) |
| 1986年3月 東北大学大学院医学研究科修了 | 2012年4月 東北大学医学部副学部長 (併任～2015年3月) |
| 1986年4月 東北大学医学部附属病院 (小児科) | 2012年7月 東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター長
(併任～2018年3月) |
| 1986年6月 米国ジョンズホプキンス大学医学部研究員(核医学) | 2015年4月 東北大学副理事 (併任) |
| 1988年6月 東北大学医学部助手 (薬理学) | 2016年4月 東北大学総長特別補佐(併任～2018年03月) |
| 1993年4月 東北大学医学部講師 (薬理学) | 2022年3月退 職 |
| 1995年4月 東北大学医学部助教授 (薬理学) | |
| 1998年11月 東北大学医学部教授 (薬理学) | |
| 1999年4月 東北大学大学院医学系研究科教授 (薬理学) | |

谷内一彦教授は1981年に東北大学医学部を卒業し、初期研修を経て1982年に東北大学大学院医学研究科小児科学講座(多田啓也教授)に入学、東北大学サイクロトロンRIセンター(井戸達雄教授、松澤大樹教授)において研究を行い、1986年に「Positron emission CTを用いた神経伝達物質受容体のイメージングとその定量的評価に関する基礎的研究」により医学博士を取得しました。1986年に米国ジョンズホプキンス大学(核医学、Henry N. Wagner, Jr教授)に留学、帰国後に日本学術振興会特別研究員を経て、1988年から第一薬理学教室助手(渡邊建彦教授)、1991年からサイクロトロンRIセンター(核医学、現在まで)の併任、1995年から第一薬理学教室助教授、1998年に病態薬理学(2004年から機能薬理学分野に名称変更)教授に就任しました。谷内教授はこの間、組織運営として、臨床研究・治験、研究公正、分子イメージング研究、放射線・核燃料物質管理、利益相反管理などの体制整備に尽力しました。

谷内教授の教育上の功績として、1988年から現在まで学部教育の薬理学と臨床薬理学を担当して薬理学教育に尽力しました。大学院教育では研究科融合的な教育を目指す医・歯・薬・工学融合的な「分子イメージング教育コース」を立ち上げ、放射線医学総合研究所と連携大学院を運営して多くの博士学生を指導しました。学術上の貢献はPETイメージング、遺伝子ノックアウトマウス、分子生物学的研究、プロテオミクスなどの最新技術を早く導入して先駆的な薬理学研究に従事しました。谷内教授はヒスタミン研究に初めて遺伝子改変マウスを導入し、ヒスタミン関連遺伝子ノックアウトマウス研究を展開すると共に、国内外の研究者に遺伝子改変マウスを供与してヒスタミン研究を推進しました。Positron Emission Tomography(PET)研究では、多くのPET分子プローブを創生して業績を挙げました。ヒスタミン受容体のPETイメージングは谷内教授が米国留学中に開発を開始した独創的研究で、1991年に宮城県医師

会・東北大学医学部奨学賞、1996年に日本薬理学会学術奨励賞を受賞しました。谷内教授が開発した抗ヒスタミン薬の脳内ヒスタミン受容体占拠率は、現在、国内外の非鎮静性抗ヒスタミン薬使用ガイドラインに使用されています。認知症のアミロイド β ・タウ・神経炎症イメージングは世界的に高く評価されており、2018年に第6回テルモ財団賞を受賞しています。

谷内教授は学会活動として、(公社)日本薬理学会の理事長、副理事長、財務委員長、広報委員長、日本薬理学雑誌編集長、第87回日本薬理学会年会長(2014年3月)等の重責を担い、(一社)日本臨床薬理学会では評議員、第42回日本臨床薬理学会年会長(2021年12月)を務めています。